

中学校：第1学年美術科学習指導案

指導者名（所属：〇〇領域専攻）

教科指導担当者名

1. 指導日時： 〇〇年〇月〇日（〇曜日） 第〇校時（〇〇：〇〇～〇〇：〇〇）

2. 指導学年： 第〇学年〇組（計〇〇人）

3. 指導場所： 〇〇教室 *教室以外の場所も活用する場合は、それも記入する。

4. 題材名： 「ポップアップカードに気持ちをのせて～」（紙の特性に気づこう！活用しよう！）

*他教科では「単元名」と記述されることも多いが、美術などの実技系の授業では、「題材名」と表記した方が、学習の区割りとして分かりやすい。

*単に題材「ポップアップカード」だけを示さず、学習のめあてや生徒の意欲喚起につながる題材名が望ましい。

5. 題材の目標

○紙素材の種類やそれぞれの性質について理解を深め、基本的な紙の加工方法を習得する。（知識及び技能）

○自ら発想しイメージを表現するために紙の加工法を思考し活用する力を育てる。（思考力・判断力・表現力等）

○身の周りの人に対して伝えたい「想い」を意識し、積極的に素材を選び、加工法を組み合わせ表現しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

*題材全体から考えて、その学習の中で新たに得る（又は学習の中で必要な）知識や技能は「何か?」。その学習を通じて思考し判断し表現していくポイントはどこになるのか? またそれらを、達成していく課程でどのような学習に取り組む態度が必要となるのかを考え「題材の目標」としたい。

6. 題材について

①教材観

本題材は、飛び出す絵本やメッセージカードなどで比較的近いものがある「紙のポップアップ（切り起こし）の技法」を活用しメッセージカードを作成することで、中学校1年生にとっての素材研究・技法研究・テーマ研究等の主体的な学習に向かう姿勢や能力を育成することを目標としている。

題材の大きな構成は、以下のような流れとなる。

- (1) 紙の性質を知るために、紙の種類や加工による表現の可能性に気づく過程。
- (2) 紙の加工のための、技法や道具の正しい使い方を理解習得する過程。
- (3) 自分が伝えたい対象や伝える思いを整理し、作品をイメージしていく過程。
- (4) 自分なりの「テーマを表現する」ために、素材や技法を選び創意工夫し制作していく過程。
- (5) 制作したものを、相手に手渡し他者評価を得ると共に自分なりに内省を深める過程。

素材としては、和紙やケント紙等を扱い、「折り」に対する強度の確保を考えたり、折ってしっかり起き上がるための正確な加工を学ばせたりしていきたい。「紙の起き上がりの仕組み」については、下図1・2を提示し、そこから「試行錯誤の過程（造形あそび的な時間）」を確保することで、様々な紙の加工を主体的・対話的に発見し交流し、表現の幅を広げていくことができると考える。

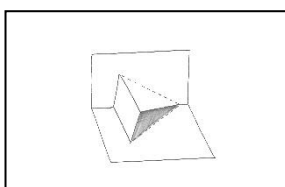


図1

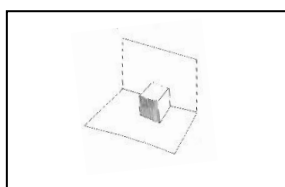


図2



今回の題材において「～気持ちを乗せて～」としたのは、次のような理由による。中学1年生(思春期)に入る生徒にとって、自分自身の「想い」を伝えることにたいして恥ずかしさが出てしまったり、相手の気持ちに気づけないもどかしさを感じたりすることは、珍しいことではなく、日常生活の中のトラブルの多くが、「人間関係を如何に構築するか？」という問題から発生しているとも言える。このため、家族や友だちなど、自分の周りで自分を見ていてくれる人を意識し、この人に自分がどんな思いを持っているのかを考えることは、これからの中学生期を過ごす上で、大切ではないかと考えたからである。相手と自分との関係や、相手がどのような表現を喜んでくれるのか？を考え、そのために創意工夫する姿勢は、デザイン学習の基礎としても重要である。その生徒自身の想いは、家族や友だちとの共通体験に基づいており、「共に分かち合った想いの積み重ね」が、ポップアップカードを通じて触発されるものとなるように、イメージを広げていくことが重要となる。そのために、思考ツールなども活用し、連想的や発展的にアイデアをふくらませていく方法も考えていきたい。

- * 自分自身が、その教材についてどのような学習価値を見込んでいるのか？その題材に取り組むことで、学習者（生徒）はどのような力・能力を伸ばすことができるのか？を丁寧に説明できることが望ましい。その際、これまでの生徒の学習経験や3年間のカリキュラムの系統性などとの関連性、また時期季節・素材との関連などの観点などを考慮しても良い。
- * 異論はあるかも知れないが、美術教科外の先生が指導や助言にあられることもあることから、教科書に掲載されていない題材を扱う際には、提示作品や試作品などを、図や写真で明示し、指導者の授業イメージ（題材イメージ）の共通化を図ることも授業研究上はあってもよい。
- * 学習指導要領に基づいた「本題材」の位置づけを考え、学習のねらいを明確にしておくことも大切にする。

②生徒観

生徒自身が制作しながら難しさを感じるのは、イメージした形に、近づけていく方法が見つけれないときではないだろうか。「紙の工作」は、生徒にとって比較的加工が容易であると思われるが、意欲が持てない、丁寧に正確な作業ができない等の理由から雑になり、そのため切り起こしが上手く行えない生徒も現れると予想される。その基本技術の習得のために、指導者によるアドバイスや生徒相互に助言し合う時間の確保等が有効ではないかと考える。さらに前述のような紙の表現技法を、発見したりためしたりする時間の確保をしておくことと、それらを体系化して理解させておくことが大切と考え、基本形を出発点にして自分なりに発展の方向を考えることから、技能や加工法の理解につながるのではないかと考える。【授業仮説1】 ←あえて「授業仮説1」等の記述は必要ない

主体的な表現を行うためには、正しく安全な道具の利用は欠かすことができない。特に利用頻度の高いハサミの利用では、幼児期から使う機会が多い道具ではあるが、経験的に使ってきた生徒も多く、効率的効果的な使い方を身につけていない者も少なからず見られる。そこで紙の加工する用途によって、刃先と刃の奥（要近く）を使い分けることや、ハサミを積極的に動かすよりも紙の方を動かすことで、安定した切り方が出来ることなど、個々が経験的に習得している知識を整理しておくことも大切となる。また、カッターナイフの使用については、経験の少ない生徒もいることを十分に配慮して、①刃の出し方（どれくらい刃を出して使用するのが適切か）②持ち方（カッターナイフを持つ手だけでなく、紙を押さえる方の手も安全な位置に置くよう気をつけること）③カッターマットなどを利用 等は、最低限の技能として指導しておきたい。また、刃こぼれや切れにくくなったときの刃の交換などについても、授業の中で明確なルールを作り、生徒自身に安全への意識が持てるようにすることが重要である。

自分自身のテーマ（主題）として「伝えたい想い」「伝えたい人」を考える際にも、「アイデアが出てこない」と行き詰まる生徒も見られると考えられる。美術などの表現では、アイデアの段階で自己の内面から主題を掘り起こしていくことに抵抗感が有る生徒も見られることがある。このときに、まずアイ

デアスケッチを完成させてから次のステップに入るとい一方方向の思考を促すのではなく、「ためし」てみた技法や形や色から連想的に思考することも、発想のきっかけとなるのではないかと考える。

【授業仮説 2】 ←あえて「授業仮説 2」等の記述は必要ない

* 中学〇年生としての、発達上の特性や経験・思考などを例に挙げながら、この題材に取り組む際に「苦手」「困難」を感じると思われる事柄を整理しておくが良い。また、その「困り」の原因を類推し、それを乗り越えさせていくための方向性【仮説】を示せると、次の③指導観の内容がより具体的に示すことができるようになる。

* 【授業仮説】などの記入は、実際には必要ない。今回の説明のために示したものである。

③指導観

この題材では、自分の思いを届ける「ポップアップカード」の制作を通じて、紙の性質を理解し紙で様々な表現をするための加工の方法を身につけることを目標とおいている。そのために、生徒の持つ知的好奇心を刺激し、「身につけたい」「自分でも工夫してみたい」と思えるように促すことが大切となる。そのためには、基本技法を伝えるだけではなく、『自分で、考え工夫する時間』を設定することが重要となる。一つの技法を応用し、自分なりに発展させていく過程と、その自分が気づいた加工方法や表現上の面白さの発見をグループや全体に紹介することは、生徒の主体的で対話的な学びの場質を高めることなるだろう。

「紙素材」はこれまでから、多く取り扱われている素材であるので、「紙による表現の面白さ」を感じさせる導入を行いたい。今回のポップアップカードでは、折りたたんだカードから「飛び出す（起き上がってくる）仕組み」を示すことで、題材への興味につなげていきたい。飛び出す絵本等の紹介や飛び出す仕組みを、基本的かつ簡単な模型で示すことが効果的と考える。

紙の種類は多様にあるが、その中でも大きく「洋紙」と「和紙」の違いについては、学習の中で触れ使い分けることで表現の広がりのために有効であることを紹介しておきたい。特に「洋紙」には木材の木目のように繊維方向があり、紙を折る・曲げるときに、癖なく折ったり曲げたりしやすい方向と、しにくい方向があるので、生徒へ必要に応じて助言することも大切である。また「和紙」は、植物の繊維が複雑に絡み合うことで出来ていることから、折る・曲げるなどの繰り返しの対して、丈夫であり、動きを着けたい部分へ用いるように促したい。今回の題材では、紙を素材とした学習が中心となるが、ポップアップカードの表現としては、紙以外にも、糸・やカラーセロハン等も準備しておいて、必要に応じて提供し表現の幅を広げていくこともできると考えている。

作品の紹介方法として

このポップアップカードの題材は、相手に直接手渡し開けてもらうという活動が、何より大切な作品評価の瞬間となる。そのため、1～数名の小集団の中で、お互いに作品を開けてもらい、感想を聞き合うなどの時間は充実させたい。また「手渡したかった人」に、実際渡してみてもの反応や感想をまとめ、自分自身の「想い」を届け、そのような行為の往還からの自己肯定感も高めていきたいと考える。

* 指導観は、生徒観でたてた仮説にもとづいて、より効果的な指導になるであろう指導方向（作戦）を明記することが望ましい。

発想が狭く弱い生徒には、教員の助言の前にほかの生徒とのグループ活動や教えあいを展開に組み込んでみるなど、指導学級や指導者によっていろいろな展開を考えていくことが出来る。

* また教材観に書くほどではないが、今後の生徒の操作活動のために補足的に説明したい事などもあれば（指導者の想い）、それも指導観に記述しておく、研究授業で「思いつきで説明しているのでは？」という誤解を招かなくてよいだろう。

* 主体的で対話的な活動なども積極的に設定し、生徒にとっての「深い学び」につながるよう意図する授業展開もかんがえることも望ましい。

7. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○形や色彩、紙の性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。</p> <p>○紙や用具の生かし方などを身につけ、意図に応じて工夫し、制作や順序などを考え、見通しをもって表している。</p>	<p>○構成や装飾の目的や条件などをもとに、紙の特性や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練っている。</p> <p>○紙を用いた作品がもつ目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫について考え見方や感じ方を広げている。</p>	<p>○美術の創造活動の喜びを味わい、構成や装飾の目的や機能などを考えた紙を材料にした表現の学習活動に楽しく取り組もうとしている。</p> <p>○美術の創造活動の喜びを味わい、構成や装飾の目的や機能を持った紙の作品の鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。</p>

8. 指導と評価の計画（全5時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法等
第一次	1	<p>○起き上がりの仕組みを見つける（50分）</p> <p>・基本的な起き上がりの仕組みをもとに、その仕組みを分析的に理解し、その発展方法を自分なりに「ためし」見つけ、友だちと交流し合う。</p>	<p>・題材提示に対して興味や関心が持てる。</p> <p>・起き上がりの仕組みを自分なりに積極的に探求することができる。【試作やまとめプリント】</p> <p>・互いの気づきや発見を積極的に交流できるか。</p> <p>【発言やまとめのプリント】</p>
第二次	2	<p>○表し方を考える</p> <p>・ためしてみた技法をもとに、どのような仕組みやデザインにするかを考える。</p>	<p>・前回の「ためし」の中で工夫したことを整理し自分のテーマとの関連で着想できる。</p> <p>【アイデアのスケッチやまとめプリント】</p>
第三次	3 4	<p>○ポップアップカードを作る。</p> <p>・いろいろな種類の紙を効果的に使い、構想にもとづいて制作を進める。</p> <p>・「切る」「折る」「貼る」などを正確で美しく仕上げていく。</p>	<p>・洋紙・和紙などを補助的に利用し、可動部や接着部分の強度も考えながら制作できる。【観察】</p> <p>・構想を基に色や仕組みを効果的に活用できる。</p> <p>・道具などの正しく安全に活用できる。【観察・作品評価】</p>
第四次	5	<p>○互いに紹介しあおう！</p> <p>完成した「ポップアップカード」を互いに紹介し合い、良いところや課題を整理する</p>	<p>・自身が「伝えたかった思い」を発表し、作品に盛り込んだ工夫を紹介し、また友だちの作品の良さを感じ取る【発言やまとめプリント】</p>

9. 主な用具・材料

教師／飛び出す仕組みの模型や図・映像など 画用紙・色画用紙・カッターナイフ・カッターマット
 生徒／包装紙や色紙・和紙など 紙用接着剤 ハサミ

*美術科の授業準備を意識化するために、提示作品や準備物なども記載しておくことが望ましい。

10. 本時の学習について（題材計画：2/5 時間目）

○「ポップアップカードでの表し方を考えよう！」

①本時の目標

- 紙を使ったポップアップ（切り起こし）の仕組みの多様性に気づき、その形や動きの「美しさ」や「面白さ」や「楽しさ」を理解する。
- ポップアップ（切り起こし）の仕組みを活用し、自分自身が伝えたい「想い」を整理し、それにそった発想から作り上げる構想を練る。【重点】

②本時について

前時では、個々の生徒が「切り起こしの技法」について探求し、発展的な「紙の切り起こし表現」を見つけることができた。またそれを相互交流することで、様々な切り起こしを使った表現にはさらなる可能性があることが理解されている。

本時では、それらの発見や気づきを基に、自分自身が「想いを伝えたい対象」を設定し、どのようなテーマを、どのような色や形・仕組みで伝えるのかを考え（着想）し、より良い表現になるよう構想を深めていく学習となる。前回の学習において生徒が取り組んだ「試し」には、基本形を繰り返し細分化していく表現・基本形を連続し繰り返す表現、別の素材を使うことで、飛び出す仕組みを別に展開しようとする表現等々が見られた。（*ここで、前時の生徒の作品やアイデアを図や写真で紹介し分析しても良い。）これらを、授業の初めに、これらの試しを再度確認し、加工方法を分類・整理しておく、発想を展開することが苦手な生徒の、着想を促したいと考える。ただ、生徒の中には、切り起こしの技法を発展させていくことが十分にできなかった生徒もあり、そのような生徒は友達の気づきを間接的（知識として）に知ることが出来たが、その技法を活用するまで自分の中で内面化しきれていないと考えられる。そのため、導入で前時の振り返りを行う事、展開2で、頭の中だけで構想するのではなく具体的に試作をしながら構想を練るという活動も保証することで、前時に切り起こしの仕組みの理解や発展ができなかった学習課題の達成を促しておこうと考えている。また、着想・構想の過程では、「想い」を伝える対象を設定することが第一のポイントとなる。誰に出すのが「適切か？」ということはないのだが、中学校1年生として「照れ」や「他者の目を気にする」こともあり、対象を絞り切れない生徒も見られると考えられる。このような生徒に対しては、個別の指導の中で「あなたの周りで自分を大切にしてくれている人を探してみようか？」等と、内省化を図る問いかけを行っていくことが大切となるだろう。

本時の学習では、次回からの本制作に向けて、ある程度（構想）の進捗はそろえておきたい。そのためにも、テンポよく楽しい雰囲気の中で授業を展開し、「想い」を伝えることが楽しみとなるような雰囲気を大切に、授業を進めたい。

*②の本時については、授業研究等の場合、参観者が「授業者が授業上ポイントとしているところ」を理解する上で大切な項目となる。

そのため、記述としては、本時の題材（学習内容）とそれに沿った生徒の活動予測、そしてその生徒の活動を発展させるための指導上の配慮等を、コンパクトに記述しておきたい。この流れは、指導案の題材について（教材観→生徒観→指導観）の考え方と共通するものである。

③本時の展開（授業時間 50 分）

区分	学習活動と内容 (予想される生徒の反応)	指導上の留意点・支援 (指導者の活動)	評価の観点と方法
導入 【5分】	[全体での学習] ・前回の授業で取り組み発見した「折り方」「切り込みの入れ方」などを、	・前時の、生徒による様々な「ためし」を図や写真・映像などで紹介し、よ	○前回の「ためし」を積極的に振り返り、自身の考えや加工の方法を分かりや

	<p>発表し合い、その面白さを共有する。</p> <p>①加工法など仕組みを紹介する。</p> <p>②その表現のよる効果（面白さ）から考えたこと感じたことを交流する。</p>	<p>り具体的な表現の工夫や発見をお互いに交流し共有できるようにする。</p>	<p>すく伝えることができたか。</p> <p>○紹介された方法を、構造的に理解し自分なりのイメージと重ね合わせることが出来る。</p> <p>【観察・発言による】</p>
<p>展開 1</p> <p>【10分】</p>	<p>〔主に個々の活動〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポップアップカードを使って「誰に」「どんな想い」を伝えたいのかを考える。 ・自他が「ためし」の中から見つけた表現の方法から、自分の表現への活用方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が誰に「ポップアップカードを渡したいのか？」を問うことで、その人との思い出や相手が「どんなことを大切に思っているのか」等を考え、それによって自分の想いを意識させていく。 	<p>○伝えたい対象と自身が共有する経験や想いを意識し、交流した紙表現の方法から、適切な技法や色・図柄等を選択していくことができる。</p> <p>【着想・構想のプリント】</p>
<p>展開 2</p> <p>【30分】</p>	<p>〔主に個々の活動〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が「伝えたい想い」から、具体的な素材や技法から選択し、デザインをまとめていく。 ・友だちとの意見交換（助言）を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の種類や色や形、また表す技法などの組み合わせを考え、より自分の表したいイメージに近づけるために構想を練る。 *スケッチで表すことが苦手な生徒に対しては、具体的に試作をしながら構想をまとめていく方法もある 	<p>○自分自身が考えた構想を、どのような技法や素材を使えばよいのか？を様々な組み合わせで考えていくことができる。また、他者の意見を柔軟に吸収し、判断することができる。</p> <p>【着想・構想のプリントによる】</p>
<p>まとめ</p> <p>【5分】</p>	<p>〔全体での学習〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互に、自分のテーマや活用しようとする技法を発表する。 ・次回の準備する道具や材料を確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導の中から、具体的によく考えられた構想や独創的な発想などを紹介し、実際の制作への参考とする。 	<p>○自他の構想の良さを共感的・客観的に理解できる。また作品の改善点や発展方向について、具体的な展望を持つことができる。</p> <p>【アイデアスケッチ・まとめプリント】</p>

④本時の板書計画や提示資料など

* 板書計画や提示資料（写真）・PP等々を示す。この欄に記入せず、別紙に添付してもかまわない。

⑤本時の評価

自分の「伝えたい想い」をまとめ、切り起こしの技法を効果的に活用し、カードの構想をまとめることができる。

* 本時の評価は、指導者にとっても授業の振り返りのポイントとなるので、（本時生徒が～できているという評価の観点を）端的に記載しておく。